

活動報告



通常総会記念講演

「バイオ業界の現状と展望～バイオ産業の振興に向けて」

5月16日、銀座フェニックスプラザで通常総会記念講演会を開きました。日経ビジネス編集委員・日経バイオテク編集委員 橋本宗明氏をお迎えし「バイオ業界の現状と展望～バイオ産業の振興に向けて」というテーマでご講演をいただきました。同氏はこれまで日経バイオ年鑑の編集長として、バイオ産業を俯瞰してこられました。そのお立場から、実感されている「バイオ業界」像を語っていただきました。

「2000年の世界の製薬企業からの歴史を見ると抗体医薬品の台頭が大きいことがわかる。その背景をみると、環境の持続的利用(SDGs)を目指す中、ゲノム情報の利用、遺伝子組換え技術やゲノム編集技術を利用することによる、産業のバイオ化が必要であった。製薬業界では、その過程でレギュレトリーサイエンスが生まれ、定着してきた。遺伝子組換え食品に対する慎重な立場の人を考えると、食の分野でのレギュレトリーサイエンスの確立が求められている」

参加者の皆さんから、「バイオ産業の変遷を分かりやすく説明いただいた」「今後の方向性について示唆に富む話を聞かせていただいた」との声を多数いただきました。



サイエンスアゴラ2019 ワークショップ開催のお知らせ

日時：11月16日（土）12:40～14：20

場所：テレコムセンタービル西棟8階 会議室C

（ゆりかもめ「テレコムセンター」駅直結）

話題提供：くすりの適正使用協議会 理事長 俵木登美子氏

事例紹介：聖路加国際病院 遺伝カウンセラー 鈴木美慧氏

東京大学医科学研究所附属病院

がん化学療法看護認定看護師 都留由香里氏

参加費： 無料



俵木登美子氏

今は、ふたりにひとりががんの診断を受けるといいます。医療は進み、「医療コミュニケーション」といって、患者や家族を医療関係者など皆で支える仕組み「医療コミュニケーション」も整いつつあります。医療コミュニケーションについて、グループディスカッションをしながら、一緒に考えてみたいと思っています。

当日受付も行いますが、できるだけ事前予約をお願いしております。参加ご希望の方は、お名前、ご所属、メールアドレスをご明記の上、「サイエンスアゴラ」とタイトルをつけて、以下のアドレスまでメールにてお申込みください。



5月24日、第24回国際食品素材/添加物展 ifia JAPAN 2019において、リスクセッション「ゲノム編集食品・食品添加物の概要と今後の規制」を開きました。講師は明治大学農学部 中島春紫教授。中島氏は厚生労働省で、ゲノム編集技術を用いた食品への規制に関する検討会委員であり、遺伝子組換え技術のリスクコミュニケーションについても実践されてこられた方です。ゲノム編集の原理、安全性審査の方法、遺伝子組換え技術の違いについてわかりやすくお話しくださいました。会場には食品添加物関連の事業者の方々130名余が参加しました。

2019年6月19日 コンシューマーズカフェ

コンシューマーズカフェ「3.11に学ぶ放射能をめぐるリスク・コミュニケーションー試行錯誤の歩み」を開きました（於 くすりの適正使用協議会会議室）。講師は量子科学研究開発機構高崎量子応用研究所放射線生物応用研究部 小林泰彦氏です。小林氏は2011年4月8日、3.11直後にくらしとバイオプラザ21のバイオカフェにて、食品中に含まれる放射性物質に関するお話をいただきました。震災後最も早い時期に消費者向けに、科学者から語られたお話でした。今回参加者からはそれぞれが直面しているリスクコミュニケーションの問題について発言があり、3.11を巡るリスクコミュニケーションについてあわせて考えあいながら、話し合いました。



2019年7月30日 生協総研勉強会

生協総合研究所主催の公開勉強会「ゲノム編集技術の食品への応用ー消費者目線での考察」が開かれました。農研機構 大島正弘氏より「ゲノム編集技術の原理、遺伝子組換え技術との違い、安全性審査」について、くらしとバイオプラザ21佐々義子より「遺伝子組換え技術とゲノム編集技術の比較、それぞれの技術に対する消費者の印象、これからのリスクコミュニケーションの在り方」について話題が提供されました。その後、森田満樹氏のファシリテーションのもと、話し合いが行われました。全国の生協の指導的な立場の方たちが100名以上集まり、多岐にわたる質疑応答と活発な意見交換が行われました。



バイオインダストリー協会（JJBA）でのセミナー



3月20日 未来へのバイオ技術“勉強会「転機に立つ日本のイネ育種」のコーディネートを担当しました。

富田因則氏（静岡大学）、小松晃氏（農研機構）、齋藤三郎氏（東京慈恵会医科大学）より、イネを中心に、ゲノム情報を用いた研究、ゲノム編集技術の応用、遺伝子組換えスギ花粉米についてお話をいただきました。

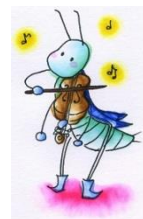
8月22日 未来へのバイオ技術勉強会「ゲノム編集技術による植物育種と食品開発のゆくえ」が開かれました。中島春紫氏からは遺伝子組換え作物・食品の安全性の考え方とゲノム編集技術を応用した食品の扱いに関する考え方について、アルデミーダ博士から2018年度の遺伝子組換え作物の動向についての話題提供がありました。



バイオカフェの



この頃



2月22日 東京テクニカルカレッジ
「ゲノム編集で『金の卵』を産むニワトリを作る」
産業技術総合研究所
バイオメディカル研究部門 大石勲氏

3月17日 東京都立新宿高校
「ゲノム編集で新しいタイ・フグを作る」
京都大学 農学研究科 木下政人氏



5月10日 東京テクニカルカレッジ
「カレーライスと食のサイエンス」
大阪府立大学 小泉望氏

6月1日 多摩六都科学館
「栄養豊富なアマニと機能性素材の一般食品への
応用」日本製粉株式会社イノベーションセンター
山内優輝氏

これからのイベント

詳細はくらしとバイオプラザ21ホームページのイベント案内をご覧ください

- 10月22日 サイエンスカフェ (東洋大学板倉図書館)
「雪の殿様—土井利位を魅了した雪の科学」東北大学 渡辺政隆氏
- 11月1日 バイオカフェ (東京テクニカルカレッジ)
「健康・未病・病気とパーソナルゲノム」東京医科歯科大学 村松正明氏
- 11月8日 コンシューマーズカフェ (くすりの適正使用協議会)
「知っていますか? 身近に使われているナノセルロース」産業技術総合研究所 平田悟史氏
- 11月9日 バイオカフェ 千葉県立現代産業科学館
「感染症に負けない! 最強の手洗いを体験しよう」丸石製薬 和田祐爾氏
- 12月6日 バイオカフェ 日本橋 門洋菓子店
「楽しい海外旅行にするために—出国前と帰国後の感染症対策」東大医科研附属病院 古賀道子氏

ヒトゲノムを用いる実験教室 第14回「私たちのDNA」開催のご案内

共催: 東京テクニカルカレッジバイオテクノロジー科
協賛: 一般社団法人遺伝情報取扱協会、バイオ・ラッド ラボラトリーズ
株式会社、特定非営利活動法人日本バイオ技術教育学会
日時: 10月19日(土) 10時から17時まで
会場: 専門学校 東京テクニカルカレッジ
実験指導: 大藤道衛医学博士
講演: 「消費者直販型(DTC)遺伝子検査からわかること」
一般社団法人遺伝情報取扱協会 事務局長 市川久浩氏

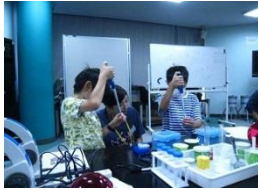


「私たちのDNA」では、実験助手がついて予備知識、経験がない方も安心して参加できます。自分のうがい液の中の細胞からDNAを取り出して観察したり、電気泳動という方法を使って分析したりします。どうぞ、ご参加ください。

2018年 会場風景

親子バイオ実験教室

夏休みを中心に、私たちの実験教室に約700名の親子が参加しました。10年以上続けてきた「DNAの粗抽出」で、顕微鏡の数が十分でない会場では、発展途上国の感染症対策に貢献するために開発された、紙の顕微鏡を取り入れた、新しい取り組みを始めました。



実施日	場所	タイトル
6月 15 日	科学技術館	DNAを取り出そう
7月 15 日	千葉県立現代産業科学館	DNAを取り出そう
7月 26 日	白井市青少年女性センター	キッチンサイエンス
7月 31 日	科学技術館	自分のDNAを取り出そう
8月 11 日	ぐんま子どもの国児童館	DNAを取り出そう 紙の顕微鏡を併用
8月 13-15日	東京国際フォーラム	DNAを取り出そう
8月 17 日	はこだて国際科学祭 (函館青少年センター)	キッチンサイエンス
8月 19 日	大崎サイエンスクラス	自分のDNAを取り出そう

学会・研究会

3月17日 日本サイエンスコミュニケーション協会 第3回定例研究会
「サイエンスコミュニケーター養成講座開催と『サイエンスカフェを開こう』作成」

講師派遣報告 2019年4月～2019年9月

- 4月15日 東京大学 「生命倫理」 講義
- 6月26日 東京大学 「フードクリエーション」 講義
- 7月17日 東京農業大学 「サイエンスコミュニケーションの魅力」
- 7月30日 生協総研公開研究会「バイオ製品科学」 講義
- 9月4日 最先端科学・分析システム&ソリューション展 (JASIS) 2019フォーラム「恐怖のプロファイリング」



会員特典

私たちの活動を応援してくださる協力(個人)会員を(1口 2,000円～)常時募集中です。会員になるとイベントに関する情報が優先的に得られたり参加費が安くなることもあります。もちろん、バイオレター(紙媒体)もお届けします(2回/年)

編集後記：日本で研究、開発された、ゲノム編集技術応用食品が店頭に並ぶ日が近づいています。関連した規制の検討も行われています。昨年、環境省で、ゲノム編集作物の環境影響評価の検討が始まったのを皮切りに、食品として(厚生労働省)、飼料として(農林水産省)の安全性が検討され、消費者庁では表示について話し合われました。それぞれにパブリックコメント募集も終了しています。遺伝子組換え食品では環境影響評価も食品としての安全性も確認されているのに、「遺伝子組換えでない」という商品選択のための表示が、安全性に関わると誤解されるなど、実際には大量に使用されているにもかかわらず、技術の意味が理解されていないことが残念です。SDGsにも貢献できるゲノム編集では、この技術でどのように品質が改善されたかが表示され、消費者の商品選択に活かされるようになるといいと私たちは考えています。9月初めには、「Bio Station」というゲノム編集技術をめぐる情報発信サイトもオープンしました。くらしとバイオの「新しい育種技術」のサイトとともにアクセスしていただけますと幸いです。

特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21

<http://www.life-bio.or.jp>

編集 佐々義子・二瓶美郷

カット 中村典子

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町3-5-3

日宝茅場町ビル8階

電話：03-5651-5810

FAX：03-3669-7810

e-mail: bio@life-bio.or.jp

